

令和2年教育委員会第5回定例会会議録

開会日時 令和2年 5月14日 午前 10時00分

閉会日時 同 上 午前 10時28分

場 所 教育委員会室

出席委員 教育長 小花高子
同職務代理者 望月京子
委 員 日高芳一
委 員 齋藤初夫
委 員 塚本 亨
委 員 青柳 豊

議場出席委員

・教育次長 安井喜一郎 ・学校教育担当部長 菅谷 幸弘
・教育総務課長 鈴木 雄祐 ・指導室長 加藤 憲司
・統括指導主事 木村 文彦

書 記

・教育企画係長 大石 睦貴

開会宣言 教育長 小花高子 午前10時00分 開会を宣する。

署名委員 教育長 小花高子 委員 望月京子 委員 日高芳一
以上の委員3名を指定する。

議事日程 別紙のとおり

開会時刻 10時00分

○**教育長** おはようございます。それでは、出席委員は定足数に達しておりますので、令和2年教育委員会第5回定例会を開会いたします。

次に本日の会議録の署名は私に加え、望月委員と日高委員にお願いをいたします。

それでは議事に入ります。本日は、報告事項等が2件でございます。

それでは報告事項等1「令和元年度チャレンジ検定の実施結果について」の報告をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** それでは「令和元年度チャレンジ検定の実施結果について」、ご報告をさせていただきます。チャレンジ検定でございますけれども、「かつしかっ子チャレンジ」に示した学習内容が着実に身に付いていることを確認するために、チャレンジ検定という形で実施をしております。合格の基準でございますけれども、国語、算数・数学、英語については正答率を80%以上とし、体力については目標値の達成としております。

ただし、令和元年度の実施結果につきましては、令和2年3月2日月曜日から3月25日水曜日まで、新型コロナウイルス感染の拡大を防止するための臨時休業としたため、2月末時点での合格者の割合を示しております。

結果でございますけれども、資料1として令和元年度チャレンジ検定の実施結果（総括）。資料2-1として、令和元年度チャレンジ検定の実施結果（小学校）。資料2-2として、令和元年度チャレンジ検定の実施結果（中学校）として、掲載をさせていただいております。

次に結果についての分析でございます。国語、算数・数学、英語についてでございます。まず小学校では、全ての教科において、学年が上がるにつれて、合格率が下がる傾向がございます。ただ、年度末には97%以上が合格し、チャレンジ検定の取組が定着していると評価をしております。

次に中学校でございます。国語においては、検定1回目の合格率が高く、基礎・基本が定着していると考えられます。また、数学においては、全ての学年で第1回の検定の合格率が他教科と比較して低い状況がございました。ただ、年度末には94%以上が合格し、チャレンジ検定の取組が定着していると評価をしております。ただし、英語につきましては、第2学年の年度末における合格率が、他学年・他教科と比較して、低いことが課題でございます。文の英訳等、既習事項を活用する力を身に付ける必要があると分析をしております。

次に体力の分析の報告でございます。小学校においては、投げる運動及び立ち幅とびにおいて、学年が上がるにつれて合格率が下がる傾向があります。特に、高学年における体育の授業での取組及び「一校一取組」運動等、日常的に取り組めるよう工夫していく必要がございます。

裏面にまいります。中学校におきましては、全ての学年において合格率が93%以上となって

おります。チャレンジ検定の取組の定着が見られると評価をしております。

次に、全員合格校でございます。小学校の国語、算数については 29 校。中学校の国語、数学、英語につきましては 3 校。小学校の体力については 0 校。中学校の体力については 10 校でございます。

次に、令和 2 年度のチャレンジ検定のスケジュールについて記載をさせていただいております。例年どおりのスケジュールでございますが、今年度は、国語につきましては、現在、臨時休業を実施していることから、実施を延期しているところでございます。

ご報告は以上でございます。

○**教育長** それでは、ただいまの報告につきまして、ご質問等ございましたら、お願いをいたします。

齋藤委員。

○**齋藤委員** チャレンジ検定に取り組んでから学力が上がってきて、いい傾向にずっと行っているのですけれども、100%のところ結構多いし、90%以上も多いのですが、70%台とか 80%台というのが散見されるのですね。それは、毎年感じる事なのですから、同じような傾向が見られるところがありますので、それについての取組が大事になってくるのではないかなと思います。その辺についての分析と、どういうことが考えられて、どういう取組をしているか、またしていこうと考えられているのか、お示しいただければと思います。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 資料 2-1、2-2 には、学校別の結果も載せております。今ご質問いただいたとおり、学校によって、または学年によって差があります。中学校については教科によっても差が出ているところでございます。簡単に言うと、取組の姿勢の差ということもあると思いますけれども、様々なことが考えられます。それにつきましては、指導室として、担当指導主事を学校に付けております。その学校の課題、なぜ、こういった形で取り組んでこのような結果が出たのかといったところについては、是非、研究を深めていく必要があると考えております。

学校の中には、例年、やはり低い状況があったり、今年度につきましては、先ほどお話をしましたが、臨時休業によって 3 月の取組ができなかったことで、若干最後の成果が現れにくくなっておりますが、他校の取組だとか、様々指導、助言をする中で、ぜひ改めてチャレンジ検定の意義を話し、指導していく必要があると考えております。

○**教育長** 齋藤委員。

○**齋藤委員** チャレンジ検定、私は大事だと思いますので、目標を持ってチャレンジして、学力を付けていくという非常にいい機会ですので、これをうまく生かしていけるように、頑張りたいと思います。よろしく申し上げます。

○**教育長** その他ご質問等ございますか。

日高委員。

○**日高委員** チャレンジ検定ですけれども、全員合格校というのが結構出ているにも関わらず、体力になると小学校辺りは0校なのですが、これはそんなに目標が高いのでしょうか。こういう感じも見られるし、この辺りどのように捉えていますか。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 実際、小学校の体力につきましては、全員合格校0校ということで、昨年度もゼロでございました。やはり、この取組の指標、考え方なのですけれども、特にソフトボール投げであるとか立ち幅とびについては、体力テストを基準にしております。ですので、すぐに達成できるというよりは、体力テストの平均辺りを目指すような数字設定になっておりますので、若干やはりそのハードルは高いものかなと思っております。そのほか、短縄については、前跳び、後ろ跳び、あや跳びというそれぞれの種目によって、かなり難しさが違うと聞いております。これについては、やはり体力を向上するのが目的でございますし、その傍らで達成感を味わわせるということがありますので、こういった結果も見ながら、その基準についても随時見直しをしていく必要があるかと考えているところでございます。

○**教育長** 日高委員。

○**日高委員** 確かに、体力ではいろいろな状況があると思いますので、全員が合格するという目標ですから、ちょっと難しい課題なのかもしれません。

そういう中で、特にこの国語・算数等の学力について、ちょっと申し上げたいと思うのですが、先ほどもお話にありましたけれども、全体の到達の割合が、58%とか70%とか非常に低い学校がある。これは、100%の学校があるということを見ますと、努力している学校はみんな頑張っているのだなと分かるのですが、結局は二次、三次の復習というか、その繰り返しをやらないがゆえに、58%であったり、70%程度で終わっているのかな、そんなふうにも感じるのですよね。この辺りの指導はどのようにされますか。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 学校ごとの取組の差であったり、学年ごとというところも非常に大きいと思っております。やはり組織的にチャレンジ検定に向かう姿勢で取り組んでいるところが、全員合格をしている学校には多い傾向にあります。

その取組方というのは、それぞれ学校の特徴もあると思いますけれども、葛飾区は多くの学校がございまして、我々指導室の指導主事のほうでいい取組を行っている学校の取組を紹介していくという中で、全体としてのそういった差が出ないような指導、助言を心がけていくべきだと考えております。

今年度も既に動き出し始めておりますので、臨時休業中ではございますけれども、昨年度の結果を受け、具体的に各校を回り、指導をしていきたいと考えております。

○日高委員 よろしくお願ひします。

○教育長 そのほかにはいいですか。

それでは、青柳委員。

○青柳委員 こちらのチャレンジ検定の体力についてなのですけれども、「一校一取組運動」という取組、これは大変すばらしい取組だなと感じております。

その「一校一取組運動」、結構項目がある中で、先ほどもおっしゃられたように、体力についてなかなか満遍なくいいポイントを取るのには難しいということですが、1個に絞ってということであれば、ある程度の目標設定、目標数値に近づけることができるのではないかなと感じております。

その中で、各校別の取組を具体的にお示しいただくなり、こういう表に入れていただくなりということは可能なのでしょうか。

○教育長 指導室長。

○指導室長 資料として、ご提出することは可能でございます。例えば、冬に縄跳び大会という形でよく学校ではやっているのですけれども、それぞれの学校ごとの取組がございます。そして我々のほうで大事にしているのが、やはり運動の日常化でございます。

特定の期間だけではなくて、例えば中休みに取り組んだとか、やはり毎日の生活の中に運動を入れていくといった取組も多く学校がやっているところでございます。各校のそれぞれの特色を生かした一校一取組、または一学級一実践というものもあります。そういったところについては、また別途情報提供させていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○教育長 よろしいですか。

そのほかにはいかがでしょうか。

望月委員。

○望月委員 私もやはり体育のほうなのですけれども、極端に10%以下、10%台、20%台というところがかかなり目立つのですけれども、これは先ほど指導室長がおっしゃったように、このコロナウイルスの影響で調査ができなかったために、これだけ低い数字が出ているのかなと少し感じたのですけれども、どうなのでしょう。

○教育長 指導室長。

○指導室長 コロナウイルスの影響もありますけれども、ただ、体力については通年で行っております。やはり低い学校の傾向を見ますと、中学校の4ページをご覧くださいますと、体力の中学校についての※印に内容が記載されております。1年生は2種目、立ち幅とび、持久走の内容でございますが、2年生、3年生については、昨年度の自分の体力テストの合計点の記録に、目標値の目安、2年生の男子ですと、プラス8点だとか、そういったところを具体的に踏まえて、子どもたちが自分で考えて、例えばこの記録、立ち幅とびを頑張るために何をしようとか、そう

というような目標を自分たちでつくるということを大事にしております。ただ低いところは、やっていなかったというよりは、その測定の機会が余り設けられていないということもあろうかと思っております。

実際、やっているかということと、あとは、いわゆるテストをする。体育の中でそういう時間をつくって、測定を何とかやっている学校もありますし、なかなか十分にその時間が取れなかった学校もあります。これについても、低い現状、そのままイコール体力が低いということではないのかなと思っておりますので、その検定の取組み方についても、しっかりと条件化してまいりたいと考えております。

○**教育長** 塚本委員。

○**塚本委員** 先ほど日高委員がおっしゃったのですが、まずチャレンジ検定のほうなのですが、今年、確かにコロナの影響で1回勝負になってしまった部分というのは否めませんが、逆に言えば、これが100に大変近い合格率を上げているので、評価できると思えました。これはやはり当然、校長会なりでこの資料を皆さんお手に取るわけでしょうし、場合によってはその分かと思われると思うのですね。「コロナウイルスの影響があったから、再度チャレンジの機会を失ってしまった」では済まされないし、これだけ多くの方が努力して、今年初めてやっているわけではないものですから。特に体力に関しては、自己達成感というか、高揚感という話であって、もちろん数値目標は大事なのですが、達成できたというのはぜひ、元気を与える方向で指導室がやっていただければと思います。お願いなのですが。

○**教育長** ご要望でよろしいでしょうか。

そのほかこの件についてよろしいですか。

それでは、報告事項の1をこれで終わりいたします。

次に報告事項の2、「令和2年度教育研究指定校等の決定について」の報告をお願いします。

指導室長。

○**指導室長** 令和2年度教育研究指定校等の決定について、ご報告をいたします。まず、1として、教育研究指定校になります。継続、2年目の学校につきましては、記載のとおり、9校でございます。小学校が6校、中学校が3校ということで、継続の2年目になります。

そして、新規の1年目の学校につきましては16校応募があり、内容等も検討させていただいた中で、小学校7校、中学校3校を指定をいたしました。

裏面をご覧ください。グループ研究でございます。このグループ研究につきましては、自発的なグループでの研究に対して、支援をするものでございます。まず一つ目として、「不登校生徒発生の予防と教室復帰への効果的な支援方法の開発・研究」ということで、中川中学校がグループ研究を申し出ております。

次に「算数科における『全国学力調査・都学力調査』問題を生かした授業化への取組」ということで、小学校の校長1名、小学校の教員7名。これについては葛飾区小学校教育研究会、算数科部が中心となって申込みがございました。そして、京都市視察グループによる研究ということで、昨年度葛飾教師塾等の塾生とともに京都市の視察に参りました。行っただけではなく、そこで得たことを具体的に葛飾区に還元する方法についてグループ研究を行いたいということで、申請を受けております。その3グループになります。

次に、東京都の人権尊重教育推進校でございますけれども、今年度1年目として、水元中学校が指定をされております。

最後になりますけれども、教育研究指定校の取組についてでございます。新型コロナウイルス感染の拡大を防止する観点から、今年度の教育研究指定校の取組については、1年延期して実施するとさせていただきます。

具体的に言いますと、2年目の学校については、今年度発表するということにはなりますが、今年度は発表せず、来年度を2年目の扱いとさせていただく。1年目の学校も、今年度指定はしましたけれども、その学校をそのままスライドさせて来年度の1年目とするというふうにします。やはり、授業研究が中心でございますので、授業実施ができない中で研究というのはなかなか難しいという判断をさせていただきました。

そういったこともありまして、次年度の募集については行わないという形で進めたいと考えております。ご報告は以上でございます。

○**教育長** このようなところにも、コロナウイルスの影響が出てきているところでございます。

ただいまの報告についてご質問等ございますでしょうか。

齋藤委員。

○**齋藤委員** 教育研究指定校というのは、素晴らしい取組で、かなり何年もやってきているので、多くの学校がもうされていると思うのですね。ただ、やっていない学校も少しあるのかなという気もしていて、これはやはり教員の指導力の向上にもなるし、そのことが子どもの学力向上にもつながるわけで、非常に素晴らしい取組なので、全校本当にきちっとやっていただけるのが大事かなと思っているのです。もう既にやっていただいているなら、それでいいのですけれども、もしやっていないようところがあれば、やはりしっかり取り組んでいていただきたいと思います。

また、2回目、3回目もやっているところがありますので、今後そういう形で意欲的に取り組んでいくべきものだと思いますので、その辺についてお伺いしたいと思います。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** 実際5年、10年というスパンで見ますと、教育研究指定校を受けていない学校は数校ございました。特に中学校が多い傾向がございましたが、今年度につきましても、水元中学校、また堀切中学校、小松中学校に手を挙げていただきました。ちょっと長いスパンにはなりま

すけれども、10年ぐらいということを見ますと、実施している学校はほぼ全ての学校が実施をしております。

ただ、学校の先生たちも替わっていく中で、どの辺りでのスパンで見っていくのかというところと、あと今年度もこれまでも重視していますのが、やはり研究の目的でございます。その学校がまず研究をしたい、するということと、あとは区に対してのやはり還元を図っていただくというところで、その評価とか、内容についても、我々が関心を持って、選定をしております。

ですので、必ずしも手の挙げたところができないこともあるという中で、その辺りのバランスはしっかり取った上で、検討していきたいと考えております。

○**教育長** よろしいですか。そのほかにご質問。

塚本委員。

○**塚本委員** 私も齋藤委員と同じ感想を持ったのですが、ただ、研究指定校は私の記憶では、葛飾区としては非常に先駆的に一生懸命やっていますよね。学力向上につながり、そういった意味でも長いスパンで見えてまいりますと、それは現場の教員の教師力のアップにもつながりますし、ひいては、子どもの学力にも反映しています。同時にまた、学校全体の指導、研究活動、特に中学になりますと、生徒と先生方が、垣根を越えて一生懸命やります。そういった部分もありますので、大変な課題があるかと思いますが、どんどん進めていただきたいと要望します。

○**教育長** ご要望ということでよろしいですか。

○**塚本委員** はい。

○**教育長** そのほかにかがででしょうか。

日高委員。

○**日高委員** もう2人の委員さんからお話がありましたけれども、これだけの研究指定校を受ける区というのは、恐らくよそにない。こんなふうに自負できると思います。これはすばらしいことだなと思います。

そういう中で、2年目以降が9校、しかも小学校6校、中学3校。こういうことでありますけれども、これが本来ならば、今年度発表なのですよね。それを1年延期しなければいけないという形になりますから、そこはぜひそういうご配慮をいただいて、それでも応援が必要だと思うのです。研究は待たなしですから、今年度も続けるわけです。続ける場合における予算措置というのは、これまでとちょっと違う措置になると思うのですよね。どうしても発表年度は予算が増えますから、そういう調整等もしながら、ご苦労が多いと思いますけれども、ぜひ、学校が、研究が継続できますようにご支援をいただきたいなというお願いを1点です。

それから、もう1点は、1年目の学校は10校という、これは非常にすばらしいですよね。これだけの学校が指定を受けるということですから。コロナウイルスの問題もありますけれども、ここも同じように今年からやると思いますので、ぜひご支援をいただいて、そして、いい発表に

結び付けていただければ、大変ありがたいなど、こんなふうに思います。よろしく願いいたします。

○**教育長** ご要望ということでよろしいですか。

指導室長。

○**指導室長** ただ今、研究の継続性というお話をいただきました。2年目の学校は来年度に発表をする、1年目の学校は来年度が1年目だと言いますが、やはりその研究の継続性ということがございます。当然、2年目の学校は、例えば研究紀要とか、そういったものについては必要がないわけがございますけれども、例えば講師を呼ぶ謝礼であるとか、そういったところも、もう約束をしていたりとか、あとは研究の過程で、やはり止めないという観点で、授業研究はできなくても、あらゆる手段で研究を続けていただく必要があると思っています。それぞれに担当の指導主事がございますので、その予算の措置につきましても杓子定規な形ではなく、各校に連絡を取りながら、柔軟に対応し、そして来年度の発表が、より実り多き発表になりますように、最大限、支援をしてみたいと考えております。

○**教育長** そのほか、いかがでございましょうか。

望月委員。

○**望月委員** 確認なのですけれども、グループ研究の3グループと東京都の人権尊重教育推進校、これに関しても延期ということよろしいのですか。

○**教育長** 指導室長。

○**指導室長** すみません、説明が足りませんでした。

まず、グループ研究につきましては、この人数等のこともあります。授業研究だけではないということもあります。最終的には誌上発表という形になりますので、その実施の有無について個々のグループに確認をして、できるということであれば、認めていきたいと考えております。

東京都の人権尊重教育推進校でございますが、現在、東京都から延期という話が来ておりません。これについては、また東京都からの指示があり、延期になるかもしれませんし、延期にならないということになりましたら、担当の指導主事を中心に、1年目、事業研究が十分できない中で、どういったことを人権教育の視点で研究を深めていくかについて、我々も一緒に考えてまいりたいと考えております。

○**教育長** 追加でご説明させていただきました。よろしいですか。そのほかはいかがでございましょうか。

よろしいですか。それでは、報告事項の2を終わりといたします。

以上で本日の議事は全て終了となりますが、そのほか何かご意見、ご質問等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、令和2年教育委員会第5回定例会を閉会といたします。

ありがとうございました。

閉会時刻 10時28分